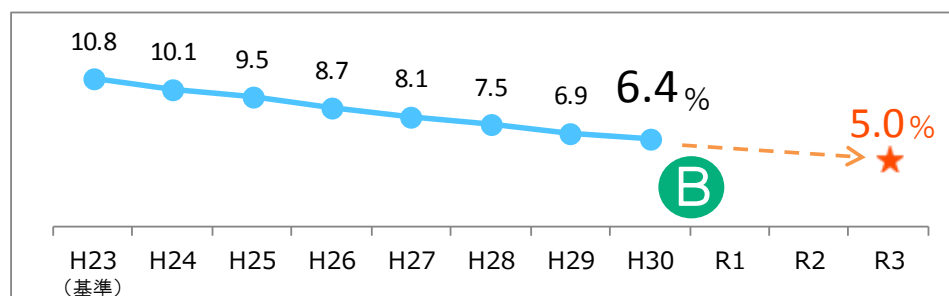


(別冊) 成果指標一覽

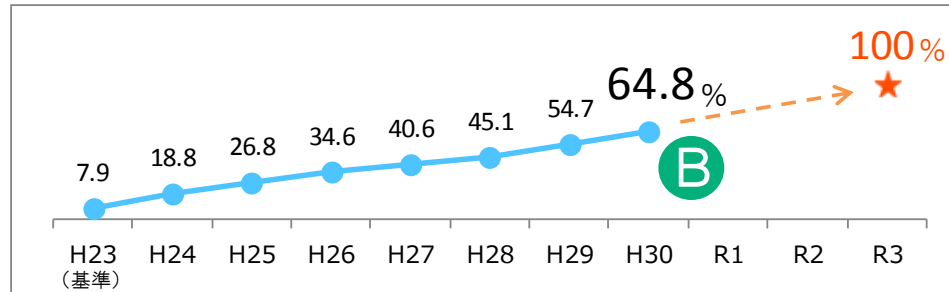
鉛製給水管率 (水道)	算出方法
	$(\text{鉛製給水管残存件数} / \text{給水件数}) \times 100$

老朽化が進む鉛製給水管の早期解消に向けた取組の進捗状況を表す。



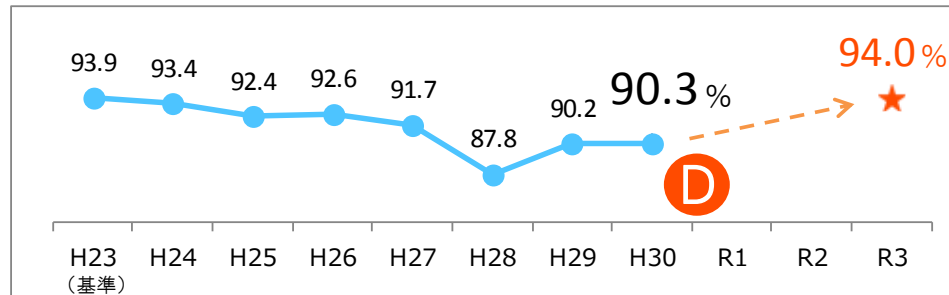
管路の更新進捗率 (水道)	算出方法
	$(\text{H23} \sim \text{更新した管路延長} / \text{H23} \sim \text{R3までの計画更新管路延長}) \times 100$

水道の安定供給のために取り組んでいる、老朽化した水道管路の更新状況を表す。



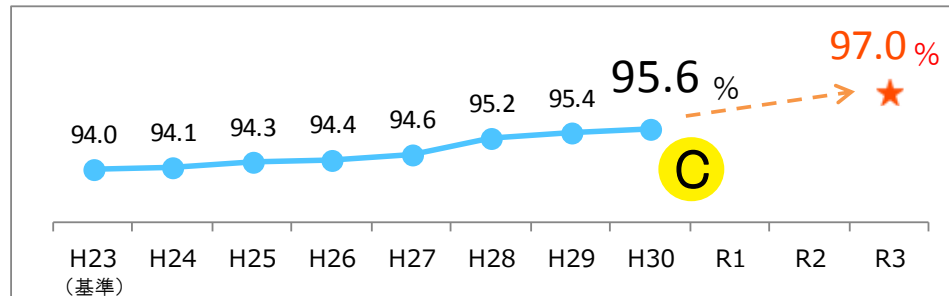
有効率 (水道)	算出方法
	$(\text{年間有効水量} / \text{年間配水量}) \times 100$

配水池から送り出した水に対する有効利用の割合を表す指標で、水道事業の経営効率性や配水管及び給水管の健全性を表す。



給水普及率 (水道)	算出方法
	$(\text{給水人口} / \text{給水区域内人口}) \times 100$

水道の整備が完了した水道利用が可能な区域内における、水道への接続状況を表す。

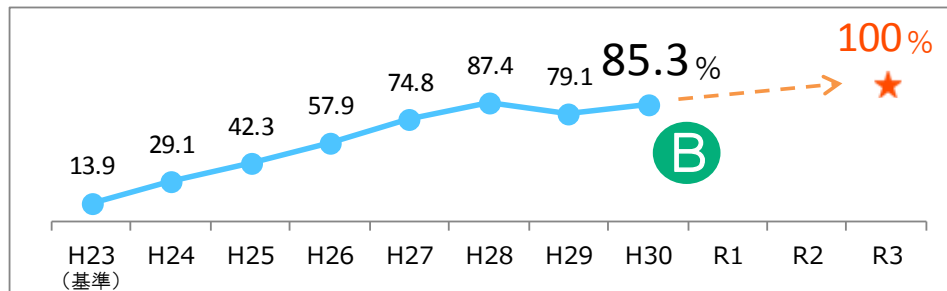


管路の新設進捗率
(水道)

算出方法

$(H23 \sim \text{新設した管路延長} / H23 \sim R3 \text{までの計画新設管路延長}) \times 100$

未普及解消事業や熊本市全体の水運用機能の強化のために取り組んでいる、水道管路の新設工事の進捗状況を表す。
※第6次拡張事業の第2回変更に伴い、平成29年度に目標延長を変更(増加)しているため、実績値がいったん低下している

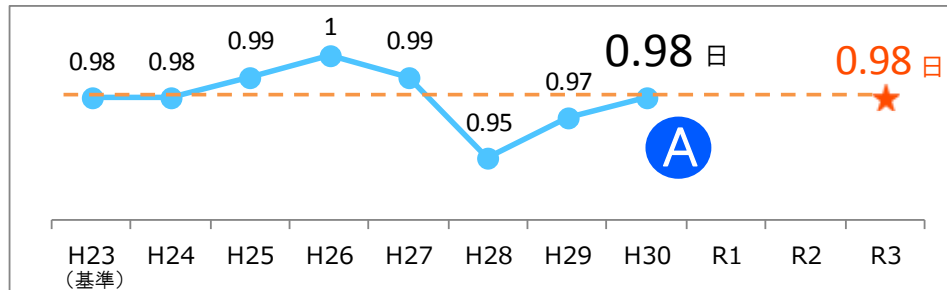


配水池貯留能力
(水道)

算出方法

配水池総容量 / 一日平均配水量

水道水を貯めておく配水池の総容量が平均配水量の何日分あるかを示す。

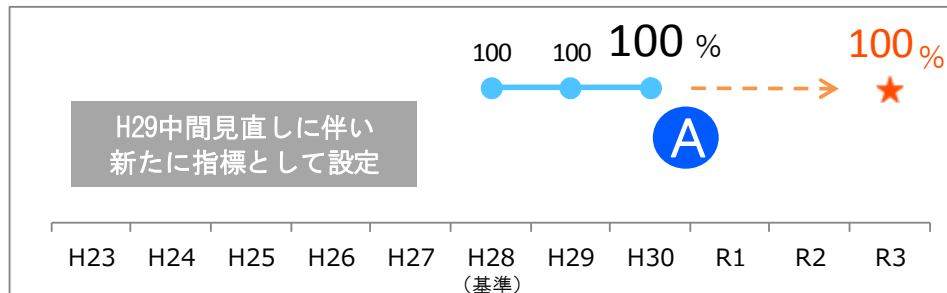


水質基準達成率
(水道)

算出方法

$(\text{水質基準適合回数} / \text{全検査回数}) \times 100$

全ての水質検査においてどれだけ法令で定められた基準を達成できているかを示す指標であり、水道水の安全性を表す。

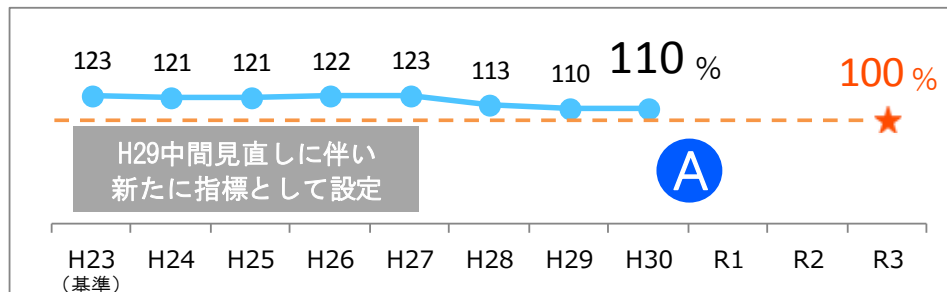


水質検査実施率
(水道)

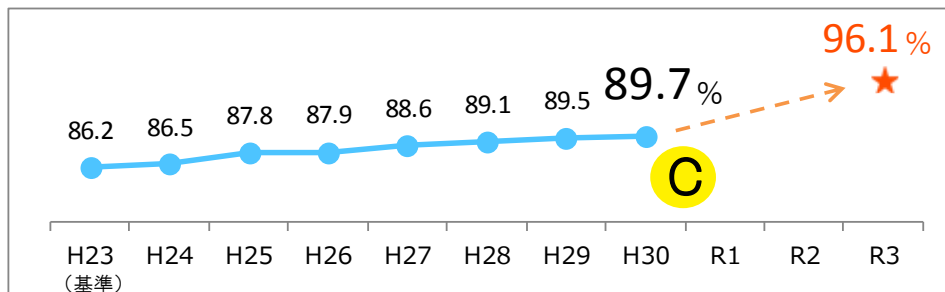
算出方法

$(\text{実検査回数} / \text{法定検査回数}) \times 100$

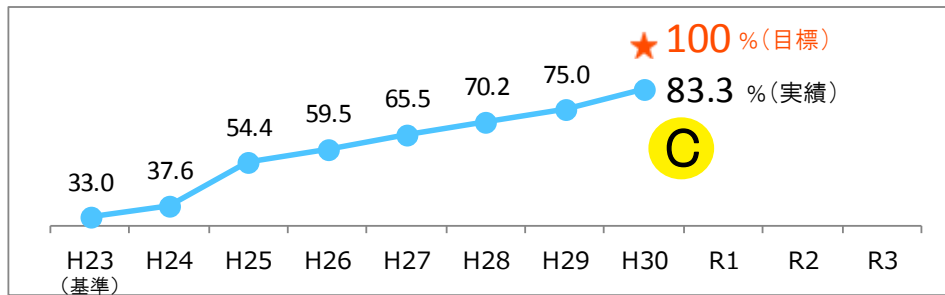
法令で定められた検査回数に対してどれだけ水質検査を実施したかを示す指標であり、水質検査が必要な回数以上実施されているかを表す。



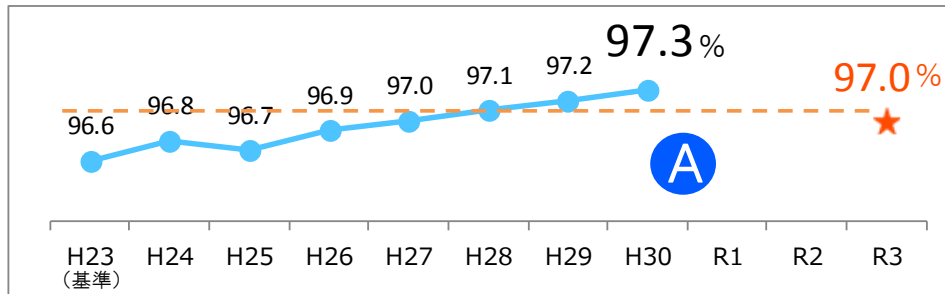
普及率 (下水道)	算出方法
	(処理区域内人口/行政区域内人口) × 100
公共下水道が使用できる人の割合を示し、下水道の未普及解消事業の進捗状況を表す。	



浄化センター、 ポンプ場の 施設機器の更新率 (下水道)	算出方法
	(H20~H30改築済機器総数/H20~H30改築必要機器数) × 100
汚水の処理機能の確保に必要な、浄化センター、ポンプ場内の施設機器の改築更新状況を表す。 ※下水道施設長寿命化計画に基づき、目標年度をH30に設定	

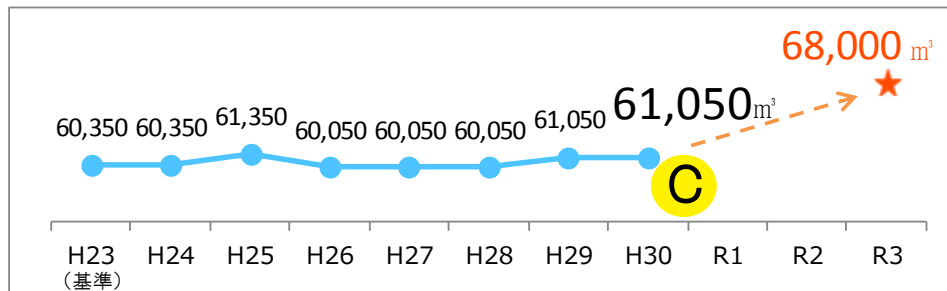


水洗化率 (下水道)	算出方法
	(下水道接続済人口/処理区域人口) × 100
下水道の整備が完了し下水道が利用可能な区域内における、下水道への接続状況を表す。	



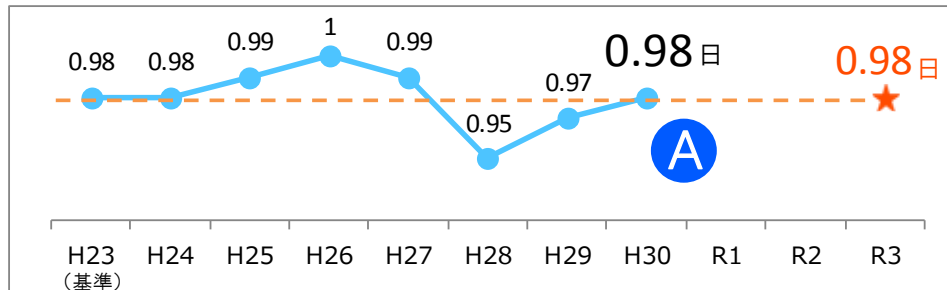
災害対策用 貯水量 (水道)	算出方法
	災害発生時に飲用水が確保できる量

熊本市民74万人が1週間に必要とする貯水量 (68,000m³) の確保状況を表す。



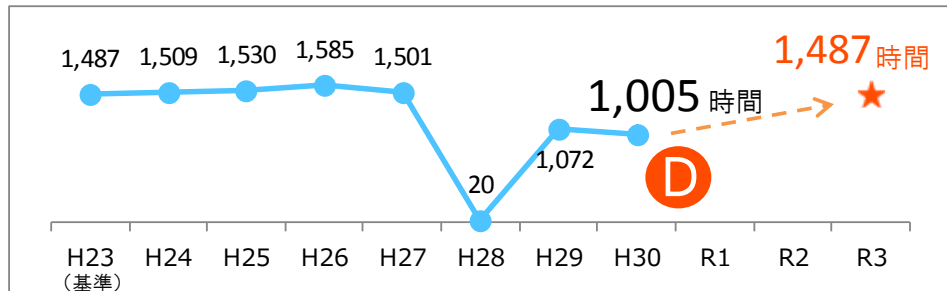
再掲 配水池 貯留能力 (水道)	算出方法
	配水池総容量 / 一日平均配水量

水道水を貯めておく配水池の総容量が平均配水量の何日分あるかを示す。



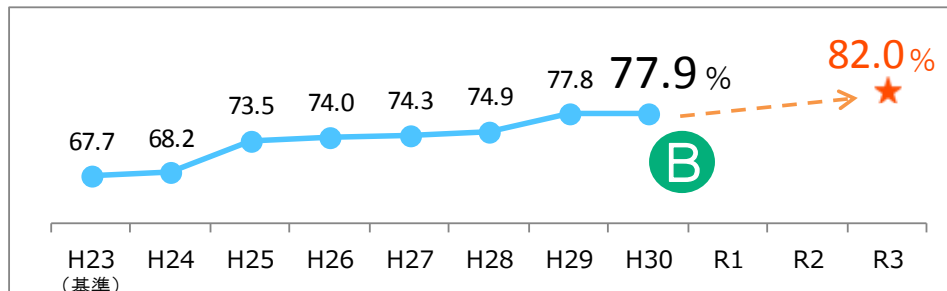
危機管理研修 延時間 (共通)	算出方法
	危機管理に関する研修を実施した延時間

職員や組織の災害対応能力の向上のために実施している防災訓練など、危機管理に係る研修や訓練への参加状況を示す。



耐震適合性のある 基幹管路の割合 (水道)	算出方法
	(耐震性のある基幹管路延長 / 基幹管路総延長) × 100

水道の基幹管路の延長に対する耐震適合性を有する管路の割合を示し、地震災害に対する水道管路網の安全性や信頼性を表す。

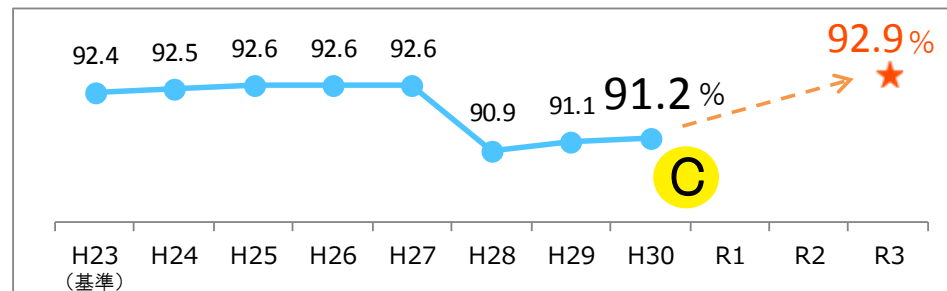


(別冊) 成果指標一覧 基本施策3 災害に強い上下水道の確立 (続き)

基本施策3
災害に強い上下水道の確立

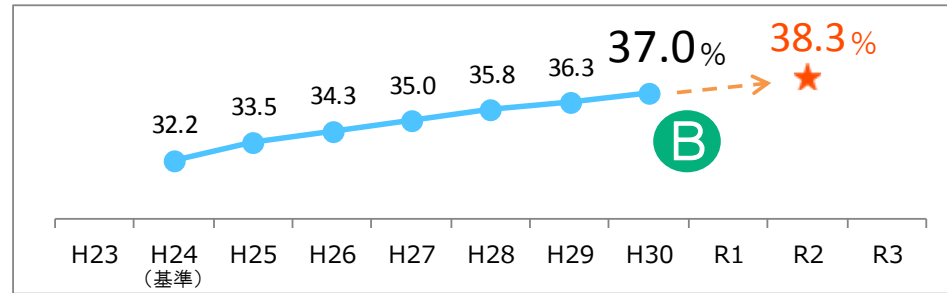
配水池 耐震施設率 (水道)	算出方法
	$(\text{耐震対策の施されている配水池容量} / \text{配水池総容量}) \times 100$

配水池のうち、耐震化が実施されている施設容量の全配水池容量に対する割合を示す。
※平成28年度から合併町を含む市内全域を対象としている



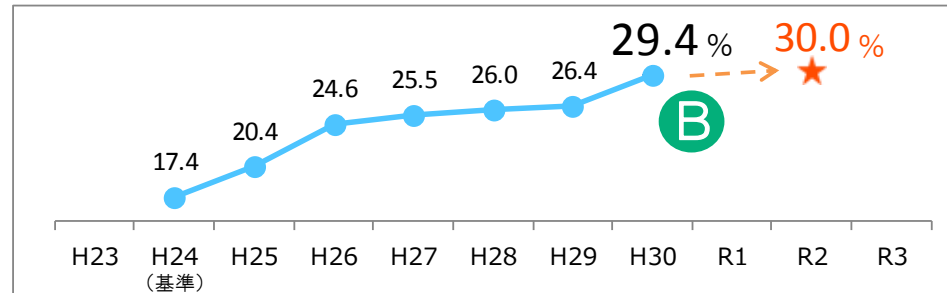
管路耐震化率 (下水道)	算出方法
	$(\text{耐震化済延長} / \text{整備済延長}) \times 100$

全ての下水道管路の延長に対する耐震化した管路延長の割合を示すもので、地震災害に対する下水道管路網の安全性や信頼性を表す。
※下水道総合地震対策計画に基づき目標年度をR2に設定



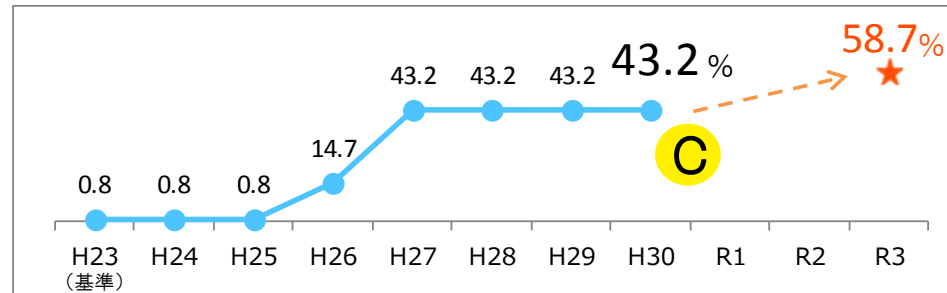
ポンプ場及び 浄化センター 耐震対策実施率 (下水道)	算出方法
	$(\text{ポンプ場及び浄化センター耐震対策実施済施設数} / \text{ポンプ場及び浄化センター施設数}) \times 100$

地震発生時における維持管理従事者の安全や処理機能の確保に必要な、浄化センターやポンプ場内の設備の耐震化の割合を表す。
※下水道総合地震対策計画に基づき目標年度をR2に設定



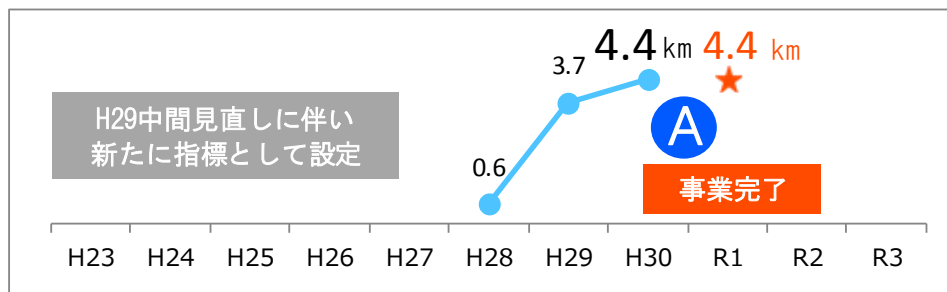
重点6地区 の対策率 (下水道)	算出方法
	$(\text{重点6地区の改善済排水面積} / \text{重点6地区の総排水面積}) \times 100$

浸水被害が多発する重点6地区における浸水対策事業の進捗状況を表す。

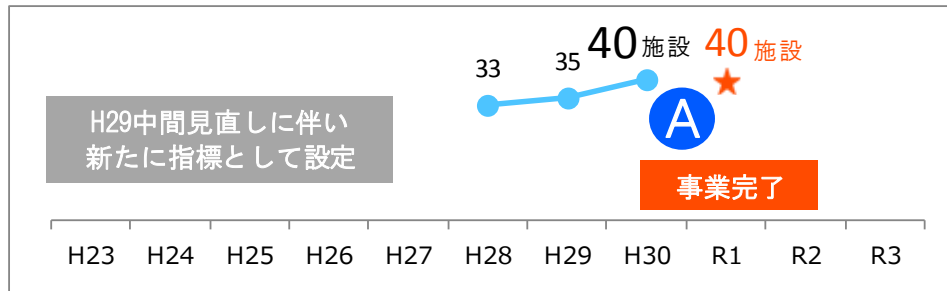


基本施策4 熊本市上下水道事業震災復旧復興計画の着実な推進

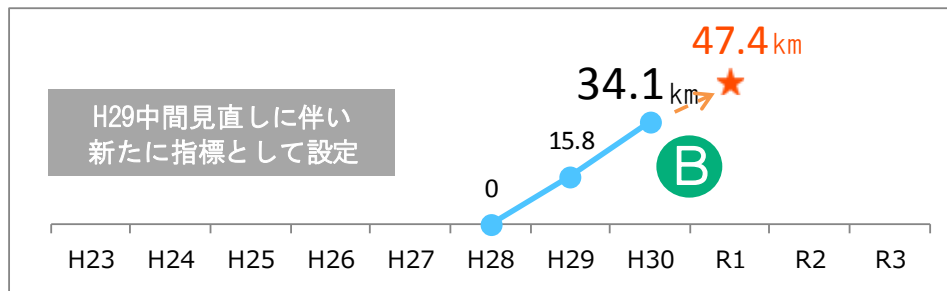
被災した水道管路 の復旧延長 (水道)	算出方法
-	
<p>熊本地震により被災した水道管路(4.4km)の復旧状況を表す。 ※熊本市上下水道事業震災復旧復興計画に基づき、目標年度をR1に設定</p>	



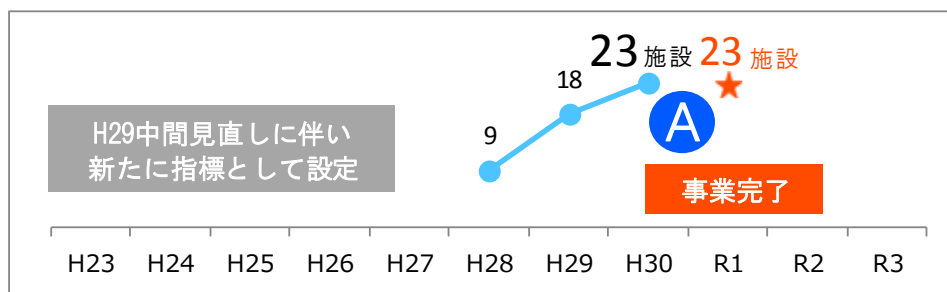
被災した水道施設の 復旧施設数 (水道)	算出方法
-	
<p>熊本地震により被災した水道施設(38施設)及び工業用水道施設(2施設)の復旧状況を表す。 ※熊本市上下水道事業震災復旧復興計画に基づき、目標年度をR1に設定</p>	



被災した下水道管路 の復旧延長 (下水道)	算出方法
-	
<p>熊本地震により被災した下水道施設(47.4km)の復旧状況を表す。 ※熊本市上下水道事業震災復旧復興計画に基づき、目標年度をR1に設定</p>	

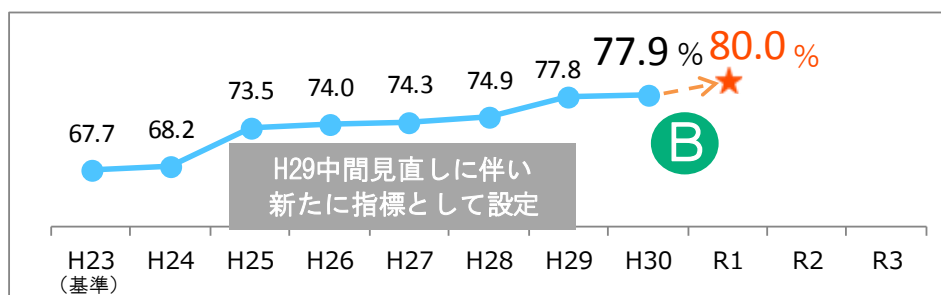


被災した下水道施設の 復旧施設数 (下水道)	算出方法
-	
<p>熊本地震により被災した下水道施設(23施設)の復旧状況を表す。 ※熊本市上下水道事業震災復旧復興計画に基づき、目標年度をR1に設定</p>	

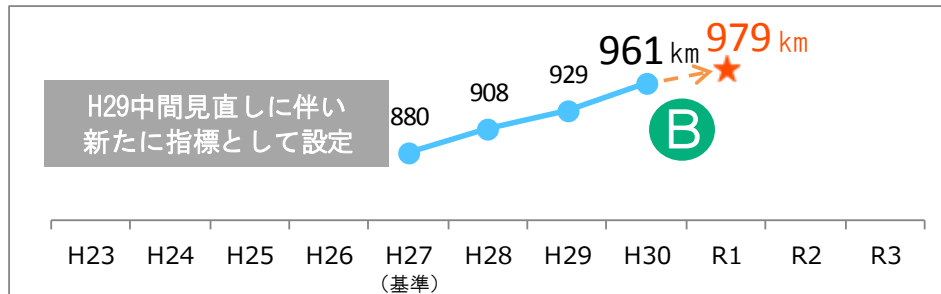


基本施策4 熊本市上下水道事業震災復旧復興計画の着実な推進

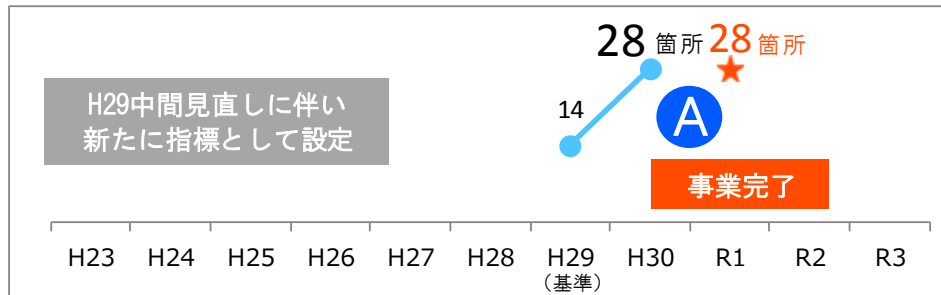
再掲	耐震適合性のある 基幹管路の割合 (水道)	算出方法
		(耐震性のある基幹管路延長／基幹管路総延長) × 100
水道の基幹管路の延長に対する耐震適合性を有する管路の割合を示し、地震災害に対する水道管路網の安全性や信頼性を表す。 ※熊本市上下水道事業震災復旧復興計画に基づき、目標年度をR1に設定		



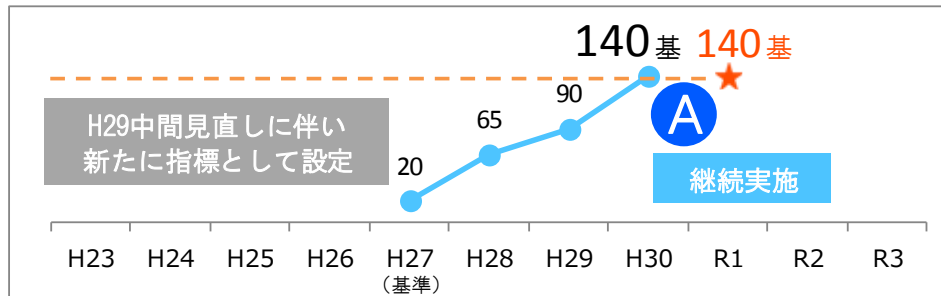
耐震化済み 下水道管路延長 (下水道)	算出方法
-	
耐震化した下水道管路の延長数であり、地震災害に対する下水道管路網の安全性や信頼性を表す。 ※熊本市上下水道事業震災復旧復興計画に基づき、目標年度をR1に設定	



既存の 貯水機能付給水管 の改良数 (水道)	算出方法
-	
市内の小中学校に配備された既設の貯水機能付給水管について、応急給水活動に利用できるよう改良を施した数を表す。 ※熊本市上下水道事業震災復旧復興計画に基づき、目標年度をR1に設定	

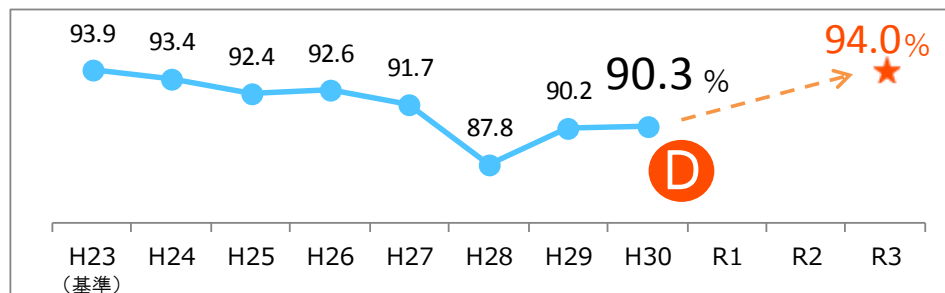


マンホールトイレの 設置基数 (下水道)	算出方法
-	
避難所の公衆衛生の向上のために取り組んでいるマンホールトイレの整備事業について、市内の小中学校への設置状況を表す。 ※熊本市上下水道事業震災復旧復興計画に基づき、目標年度をR1に設定	



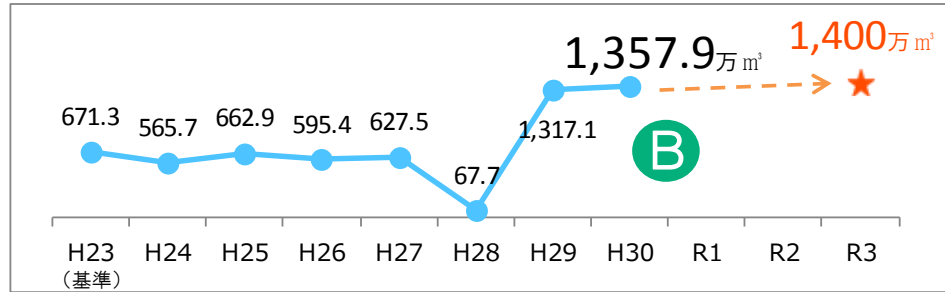
再掲 有効率 (水道)	算出方法
	(年間有効水量/年間配水量) × 100

配水池から送り出した水に対する有効利用の割合を表す指標で、水道事業における地下水の有効利用の状況を表す。



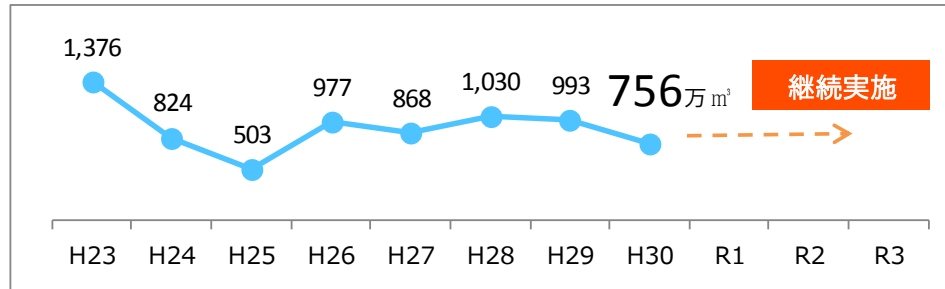
地下水涵養量 (水道)	算出方法
	上下水道局が関与した、年間の地下水涵養量

地下水の大口採取者として上下水道局が取り組んでいる、地下水涵養事業の実施状況を表す。



再生水の利用水量	算出方法
	-

浄化センターで処理された水(再生水)のうち、場内設備の洗浄用水や農業用水として利用された量を示す。
※継続して事業を実施することとしており、評価(A~D)は行わない



水道水をそのまま飲む人の割合(水道)

算出方法

(「そのまま飲む」と回答した者の数/有効回答者数) × 100

市内の水道利用者3,000世帯を対象とした上下水道についてのアンケート(無作為抽出)において、水道水をそのまま飲用すると回答した方の割合を示す。

残留塩素濃度から見たおいしい水要件達成率(水道)

算出方法

(濃度0.4以下の回数/検査回数) × 100

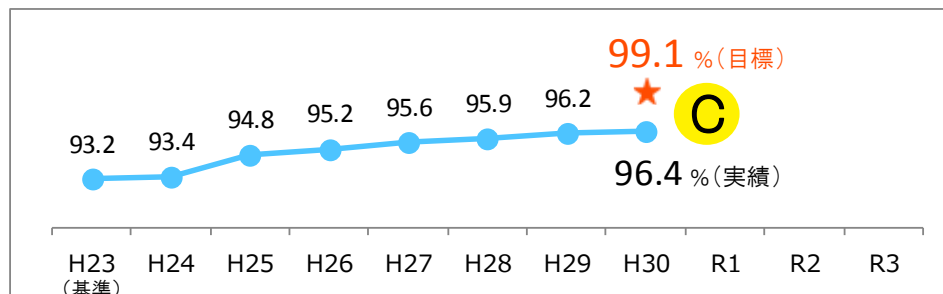
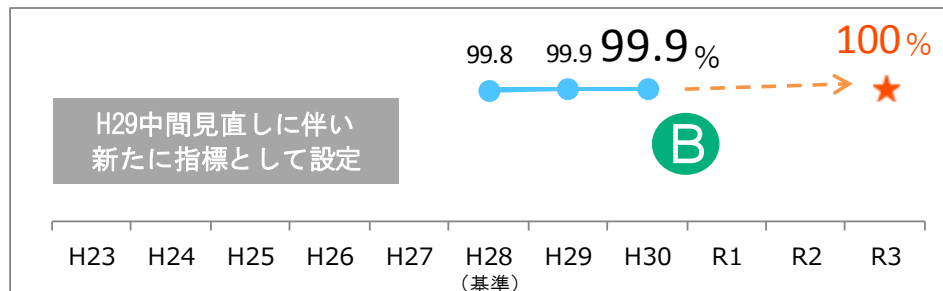
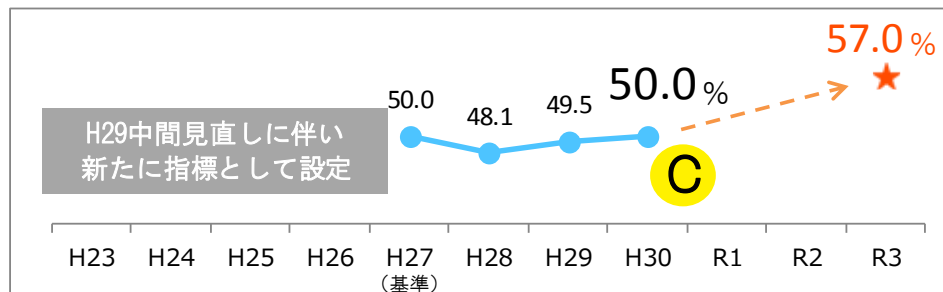
旧厚生省が示した「おいしい水」の要件の一つである残留塩素濃度(0.4mg/L以下)について、要件の達成状況を示し、熊本が誇る地下水のおいしさをどれだけ損なわずに提供できているかを表す。

汚水処理率(下水道)

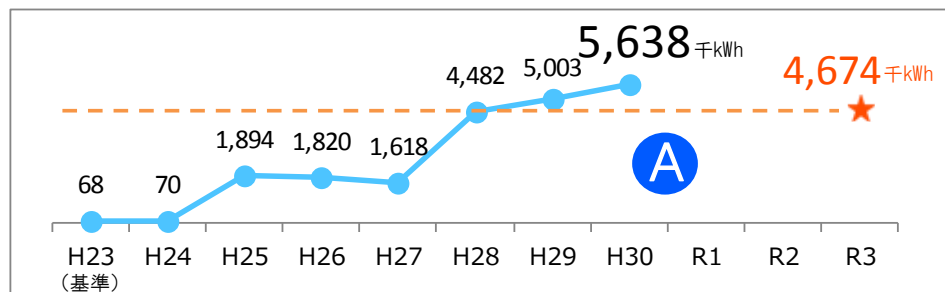
算出方法

(下水道、合併浄化槽、農業集落排水処理の合計人口/行政人口) × 100

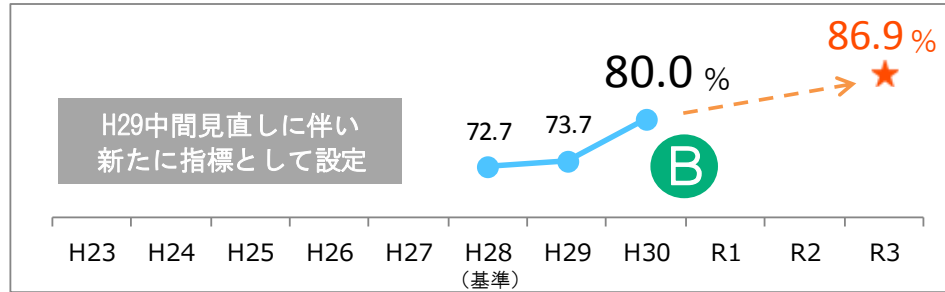
公共下水道、合併浄化槽、農業集落排水施設など、汚水処理施設全体の普及状況を表す。



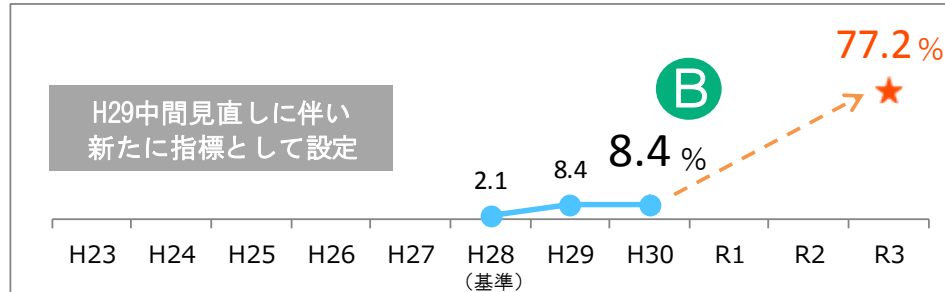
自然エネルギーの 発電量 (共通)	算出方法
	-
自然エネルギーを利用した太陽光発電、小水力発電、消化ガス発電設備による発電量の合計を表します。	



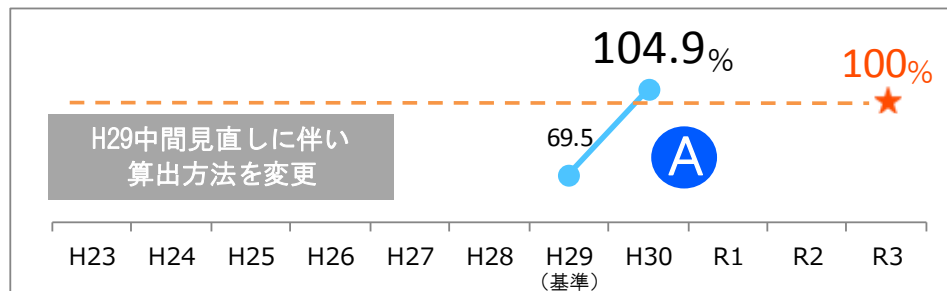
消化ガスの 利用率 (下水道)	算出方法
	$(\text{利用した消化ガス量} / \text{消化ガス全発生量}) \times 100$
浄化センターで発生する消化ガスに対して、発電やボイラーなどで有効に利用している消化ガスの割合を表す。	



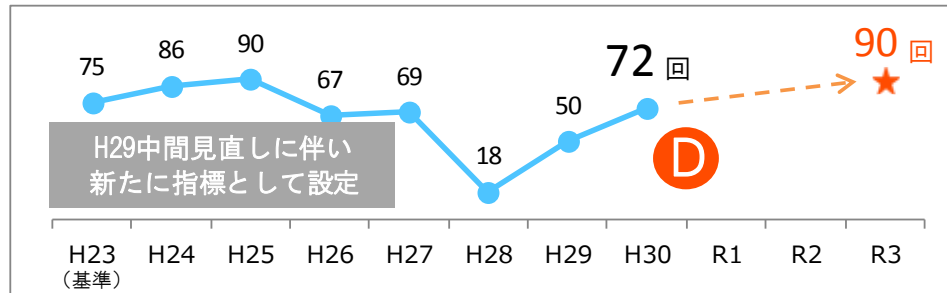
高度処理施設 整備進捗率 (下水道)	算出方法
	$(\text{予算執行額} / \text{事業費総額}) \times 100$
高度処理施設の整備に係る事業費総額に対する、予算の執行状況を示す指標であり、高度処理施設の整備事業の進捗状況を表す。	



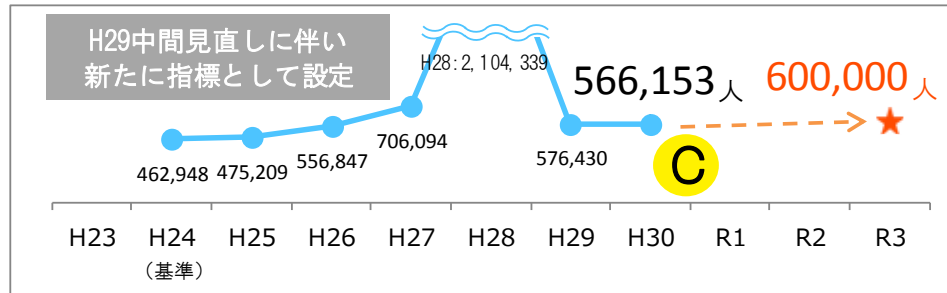
研修受講率 (共通)	算出方法
	$\text{研修延べ受講者} / (\text{全職員数} \times 10) \times 100$
上下水道局における市役所改革の取組み目標である「職員一人当たり年間10回の研修受講」の達成状況を表す。	



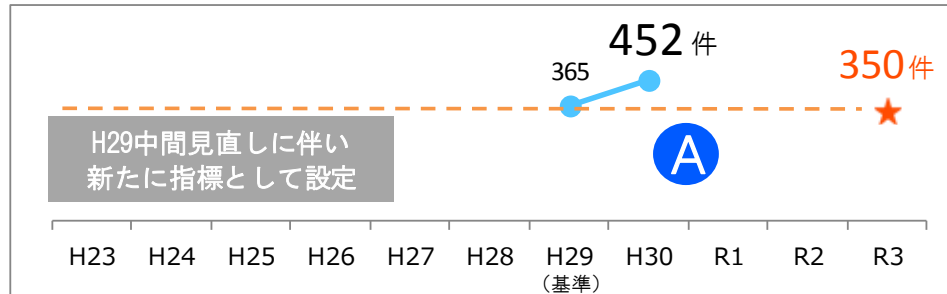
上下水道事業に関する住民説明会の開催数 (共通)	算出方法
	-
上下水道管路の新設工事の説明会など、上下水道局がお客さま向けに開催した説明会の実施回数を表す。	



ホームページアクセス数 (共通)	算出方法
	-
お客さまがほしい情報をいつでも提供できるツールである上下水道局ホームページについて、どれだけアクセス件数があったかを示す。	



お客さまからのご意見数 (共通)	算出方法
	実施したアンケートに対する回答数
事業運営に活かすためにいただくお客さまからのご意見の収集状況を表す。	

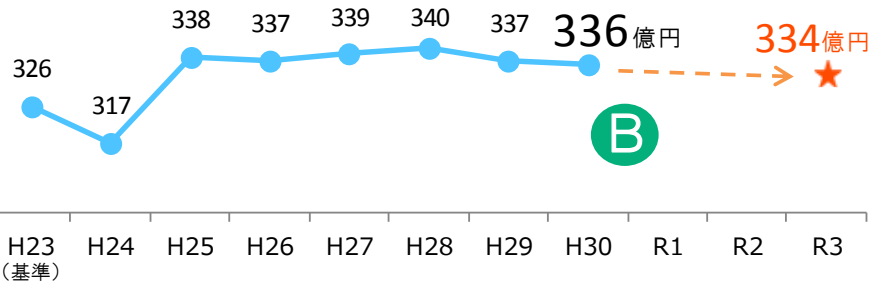


企業債残高 (水道)

算出方法

水道事業における企業債残高の総額

将来世代に過重な負担を強いることがないよう財政運営を進めるため、償還が必要な企業債残高の総額を表す。

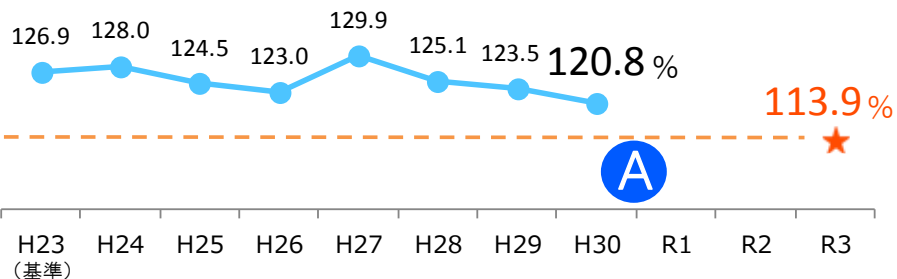


営業収支比率 (水道)

算出方法

$(\text{営業収益} - \text{受託工事収益} / \text{営業費用} - \text{受託工事費}) \times 100$

営業費用が営業収入でどれだけ賄われているかを示す指標であり、水道事業の収益性を表す。

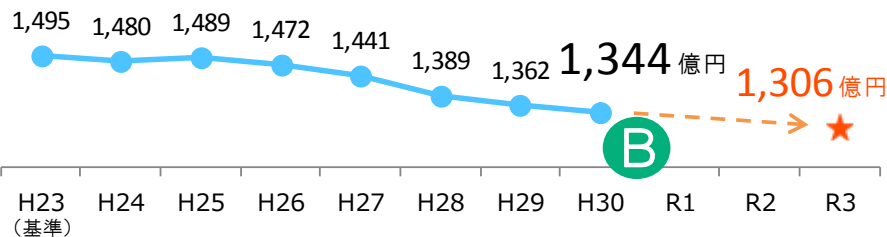


企業債残高 (下水道)

算出方法

下水道事業における企業債残高の総額

将来世代に過重な負担を強いることがないよう財政運営を進めるため、償還が必要な企業債残高の総額を表す。

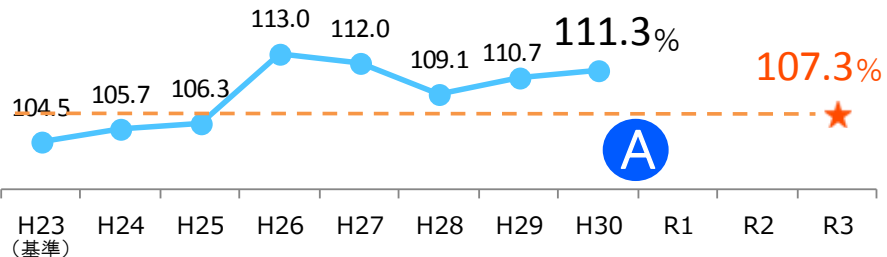


経常収支比率 (下水道)

算出方法

$(\text{営業収益} + \text{営業外収益}) / (\text{営業費用} + \text{営業外費用}) \times 100$

料金収入や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費用や支払利息等の費用をどれだけ賄えているかを示す。



純損益
(水道)

算出方法

水道事業収益－水道事業費用

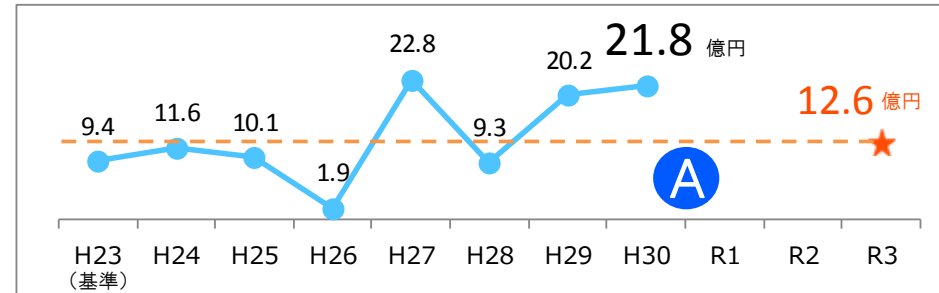
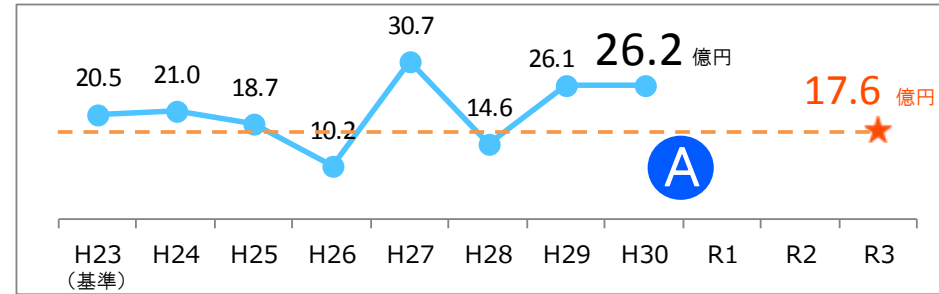
事業収益から事業費用を差し引いた指標であり、事業を安定的に継続するために一定額の黒字が必要となる。

純損益
(下水道)

算出方法

下水道事業収益－下水道事業費用

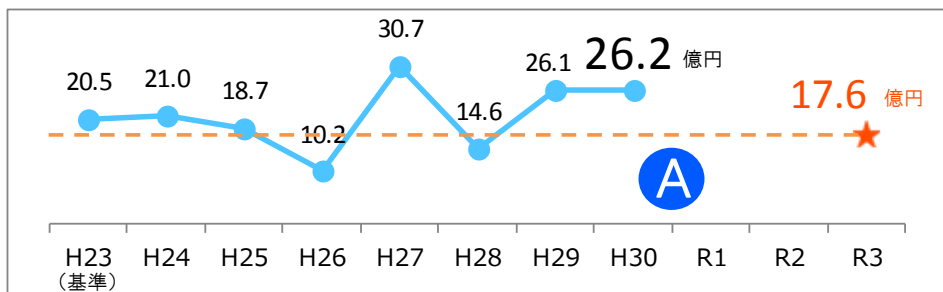
事業収益から事業費用を差し引いた指標であり、事業を安定的に継続するために一定額の黒字が必要となる。



再掲 **純損益 (水道)**

算出方法
水道事業収益－水道事業費用

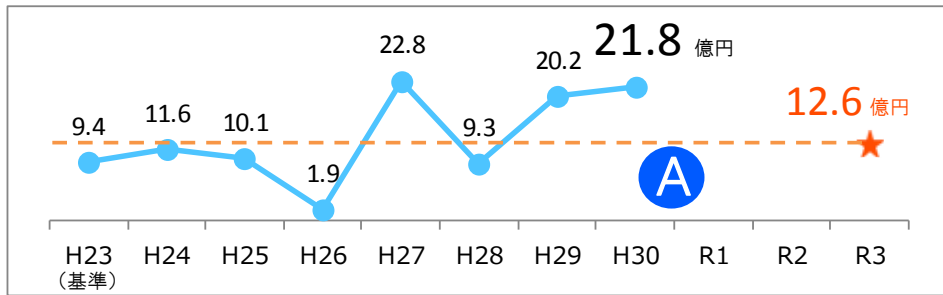
事業収益から事業費用を差し引いた指標であり、事業を安定的に継続するために一定額の黒字が必要となる。



再掲 **純損益 (下水道)**

算出方法
下水道事業収益－下水道事業費用

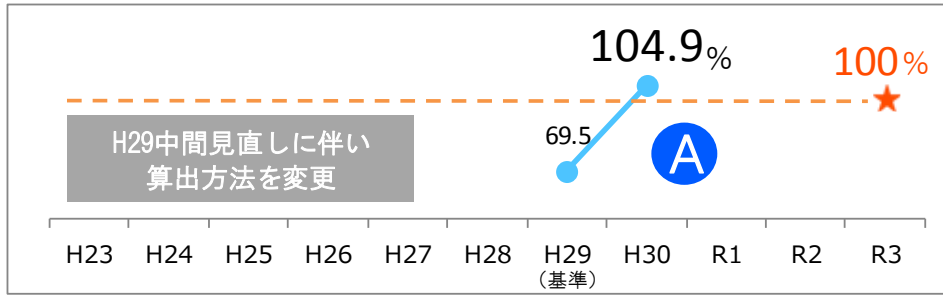
事業収益から事業費用を差し引いた指標であり、事業を安定的に継続するために一定額の黒字が必要となる。



再掲 **研修受講率 (共通)**

算出方法
研修延べ受講者 / (全職員数 × 10)

上下水道局における市役所改革の取り組み目標である「職員一人当たり年間10回の研修受講」の達成状況を表す。



国際交流 延べ人数 (共通)

算出方法
-

海外からの視察対応や国外への職員派遣など、国際協力への関与の度合いを表す。

